

ドキュメンタリー映画 「AA-音楽批評家・間章」

1970年代の音楽界に大きな影響を与え、1978年、32歳の若さでこの世を去った音楽批評家・間章 (Aida Aquirax)。音楽批評活動の一方で前衛的な音楽家やイベントをプロデュース。学生運動などで「熱い時代」だった70年代の文化をリードした。ドキュメンタリー映画「AA-音楽批評家・間章」は、間と親交のあった12人の関係者の証言によって間の評論活動と彼が生きた時代の軌跡を浮かび上がらせようとする全6章、7時間半近くにも及ぶ青山真治監督の壮大な野心作だ。

AA-音楽批評家・間章	第1章 時代の未明から	54分
	第2章 反復する未明	77分
	第3章 非時と廃墟そして鏡	81分
	第4章 僕はランチにでかける	77分
	第5章 この旅には終わりはない	79分
	第6章 来たるべきものへ	75分

2005年 / カラー / 日本 / 443分 / Digital BETACAM / ステレオ

出演 大友良英、亀田幸典、近藤等則、佐々木敦、清水俊彦、副島輝人、高橋巖、竹田賢一、灰野敬二、平井玄、本間亮、湯浅学(50音順)

インタビュー 大里俊晴(横浜国大教授 新潟市出身)

監督 青山真治

製作・配給 ユーロスペース / 制作協力 映画美学校(NPO) / 宣伝 boid

間章 (あいだ・あきら)

音楽批評家 1946年新潟市礎町生まれ 明訓高校卒 立教大学在学中に『ジャズ』誌に音楽批評を發表し、批評活動を開始。また一方で、阿部薫、近藤等則らミュージシャンをプロデュースするなど多岐に亘って活動する。1978年12月12日脳出血で亡くなる。享年32歳。

自らの活動を「音楽を産業の側からミュージシャンや聴き手の側に取り戻す闘い」と位置づけ、音楽を批評しただけでなく、秀でた演奏家を見出して触発するために、彼らの活動場所を設けた。

伝説的なサクソ奏者・阿部薫や近藤等則、坂本龍一といった世界で活躍するミュージシャンも間章のフィールドから旅立っていったのである。また、フリー・ジャズ、シャンソン、プログレッシブ・ロック、パンク・ロックなど、間章が目し紹介してきた音楽は、その時代の新しい潮流になった。1972年には故郷新潟市の新潟市体育館で伝説の音楽イベント「自由空間」をプロデュース。ジャズ、ロック、フォーク、三味線まで多彩なミュージシャンが演奏を繰り広げ2000人の聴衆が来訪、新潟の若者に新しい空気を与えた。日本のアーティストにとどまらず、スティーヴ・レイシー、ミルフォード・グレイヴス、デレク・ベイリーの初来日は間章が招聘したものだ。

監督 青山真治

1964年7月13日、福岡県北九州市門司生まれ。1984年、立教大学に入学。映画研究会に在籍し、映画制作を経験。助監督、批評家を経て96年、「Helpless」で劇場用映画デビュー。トロント、ウィーン、トリノなど多くの国際映画祭で絶賛される。その後「チンピラ」(96)、「Wild Life」(97)、「冷たい血」(97)、「シェイディー・グローブ」(99)などを発表の後、「EUREKA」(00)で、カンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞・エキュメニク賞を受賞した。近作は「レイクサイド マーダーケース」(04)「エリ・エリ・レマ・サバクタニ」(05)「サッド ヴァケーション」(07)

お問い合わせ先 映画「AA」新潟上映実行委員会 E-Mail aafilmniigata@gmail.com (電話・FAX 025-223-1284) 実行委員長 本間亮

表の写真は、生前、『間章』本人が気に入っていたという

ものである。日本海の渚を右に、新潟の寄居浜を歩く『間章』の姿が写っている。背後の砂山の傾斜には、冬を耐えた草花と半分埋もれた流木や欠け茶碗があり、異国の文字の看板も突き刺さっている。中途半端なものは寒波が吹き飛ばし、残されたものたちが、あたかも『間章』を祝福しているようだ。いつもなら、帽子から足先まで全て黒か、全て白の夏衣装だった。珍しくこれは陰陽ファッションでタバコをくわえている。『間章』没後30年がたった。こんな寄居浜は『間章』にはぴったりだったが、日本海の荒波は今も変わらず大地を犯し続けている。この斜面も少しづつ侵食され、何度も崩れた。犯され、生まれ出てきた子供たちがこの斜面を横断する時、はたして、流木の影の新しい存在の露頭を発見するのだろうか。言葉を啄ばんだ遊びカラスと新しい詩(うた)を歌うことが出来るのだろうか。

AA新潟上映・特別展示と演奏

6月16日(木)~7月1日(火) ギャラリー蔵織(ケラリ)にて

『間章』関連 絵図展 志賀恒夫(20才代作品)
(新潟市中央区西堀前1-700。tel 025-211-8080)

1972年の新潟『自由空間』に竹山や越後警女をよび、翌年警女のリードを企画した『間章』にちなんで、萱森直子さんの警女歌、津軽三味線の演奏があります

■ 演奏 萱森直子

■ 6月22日(日)pm6:30 ■ 蔵織
(珈琲券付1500円)